

令和3年度 義務年限内の自治医科大学卒業医師の要望状況【内科系総合医】

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
安来市	安来市立病院 (148床)	2	0	1	<p>安来市立病院は、安来市における地域医療を確保するために「安来市立病院新改革プラン」に掲げられた当院の果たすべき役割を踏まえ、市民の皆様から信頼され安心して来院いただけるよう「選ばれる病院」となること、そして、持続可能な病院経営を目指して、増収・経費削減対策等を行いながら、目標達成に向けて全職員で一丸となって取り組んでいます。</p> <p>また、救急告示病院として、安来市消防本部と連携しながら断らない医療を実践し、救急患者の受入れ、市南部の中山間地域に抱える無医地区3か所（奥田原・西谷・草野）のうち2か所（奥田原・西谷）で巡回診療を行うなど、地域医療拠点病院としての役割は非常に重要なものとなっています。</p> <p>一方で、常勤医は年々減少し、5年前と比較すると7名減の11名体制となりました。特に内科医（神経内科含む）が5名減と顕著であり、診療に支障を来しています。</p> <p>このような状況の中、大学病院への訪問、民間紹介会社の活用など、内科医を中心に医師確保に向けた取り組みを行って参りましたが、確保には至らず、見通しが立たない現状です。</p> <p>つきましては、今後も継続した地域医療の確保を図るために、地域の状況に対応できる総合医を派遣いただきますよう切に要望いたします。</p>	Ⅱ	12	11

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
安来市	安来第一病院 (381床)	2	0	2	<p>当院は、安来地域の不足医療を解消するため、内科、精神科をはじめ乳腺外科、腫瘍内科、循環器・消化器内科等の専門外来を含め18診療科を設置し、急性期から在宅まで医療・保健・福祉を三位一体で提供しています。当院は、次の各項目について積極的に取り組んでいます。</p> <p><地域医療拠点病院として> 訪問診療による安来地域の在宅におけるがん緩和ケアを提供しています。また、令和元年度実績で遠隔医療等の各種診療支援については年間200件の依頼があり、地域住民への医療を確保しています。</p> <p><在宅療養後方支援病院として> 「在宅療養後方支援病院（登録人数48名／令和2年10月現在）」及び「地域包括ケア病棟」の施設基準を取得しており、在宅医療を提供する地域の医療機関と連携して、緊急時の受診、入院に速やかに対応できるよう努めています。 (訪問診療423件／令和元年10月～令和2年9月実績) 診療所、病院等から要請を受け、協同して在宅医療を行うとともに、訪問看護、訪問リハも強化しています。</p> <p><安来市の救急医療体制について> 安来市内の病院が救急告示病院を取り下げ、安来市立病院は今後、規模縮小を予定されており、救急医療体制の確保が安来市の課題となっていました。この状況下において、今年7月に当院は救急告示病院に認定されました。これにより、救急搬送患者だけでなく、休日夜間の受診患者をこれまで以上に受け入れるようになりました。当院の担う役割が新たに増え、医師の確保がさらに必要となっています。 (救急搬送者受入件数：令和2年8～9月合計40件（前年同期15件）)</p> <p><急性期治療を終えた患者様の受け皿不足の解消について> 島根県の地域医療構想における安来市の課題として、県外の医療機関での急性期治療を終えた患者様（120名以上／日）の受け皿不足の解消があります。そこで平成30年12月には、安来地域の中核病院としての役割を担える診療機能を充実させ、回復期30床、慢性期10床の計40床の増床し、新診療棟を整備することで、課題を解消できる体制を構築しました。</p> <p><常勤医の高齢化> 安来市及び周辺の地域医療を支えて行こうとする当院にとって、近年、高齢のために常勤から非常勤となる医師が増えています。現在、常勤医23名中55歳以上が13名。内科医に至っては5名中3名が55歳以上であり、常勤医の高齢化が進んでいます。 今後、益々重要視される在宅医療を担う診療所をバックアップしつつ、病院として地域医療を安定して提供するためにも内科系総合医の確保が必要です。</p> <p>常勤医の年齢構成（55歳以上の医師） 内科系総合医 65歳1名 59歳1名 55歳1名 外科医 59歳1名 小児科医 69歳1名 精神科医 82歳1名 74歳1名 74歳1名 73歳1名 66歳1名 60歳1名 55歳1名</p>	Ⅱ	19	23

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
安来市	安来第一病院 (381床)	前ページからの続き			<p><安来市緩和医療及び看取りについて> 安来市内の開業医の方々から、緩和医療を必要とする患者様の訪問診療及び見取りまでを依頼される案件が増えてきています。年々増加傾向にあります訪問診療や在宅での看取りを安定して継続するためにも、常勤の総合医が早急に必要となっています。在宅での見取り実績は、令和元年度2件だったのに対し、令和2年度は既に半年で7件の実績となっています。</p> <p><認知症疾患医療センターとして> 島根県から指定を受け、認知症の診断や初期対応、相談等を行っています。地域の医療機関や関連する施設と連携し、症状や状態に合わせて予防や治療、入院、入所など選択・利用できるよう取り組んでいます。</p> <p>上記に理由により、安来市の医療提供体制を維持していくため、医師派遣について要望しますので、ご検討頂きますようお願い致します。</p>			

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
雲南市	雲南市立病院 (281床)	1	0	1	<p>当院においては、平成31年4月に国保直営診療施設である掛合診療所を経営統合し、雲南市立病院附属掛合診療所として、外来診療（R1年度内科診療実績：延べ患者数5,565人、1日平均患者数21.5人）の安定的な提供と訪問診療や在宅看取りを推進するなど、医療資源が乏しい掛合・吉田地域の医療充実に努めている。また、これまで温泉・田井地区の一次医療を担って来られた西村昌行先生が昨年8月に急逝されたことを受け、雲南市においては後任の医師招聘に努めているが、現状としては厳しい状況である。この事を受け、温泉・田井地区の医療継続を図るため当院に対し診療支援の要請があり、昨年11月より田井診療所において訪問診療を実施している。また、温泉地区については人的にも診療所を継続することは困難であることから、訪問診療（週1回）を行うことで代替的な対応を図っている。雲南市においては、引き続き田井診療所を担っていただける医師の招聘に向けて取り組んでいるが、依然として確保の目途は立っておらず、次年度も巡回診療継続の要請を受けている。</p> <p>このように、昨年度から新たに掛合診療所及び田井診療所における巡回診療を担うことになったが、継続的に運営して行くためには内科系総合医を増員配置する必要がある。</p> <p>また、これまで地域医療拠点病院として圏域内の医療機関に対し、CT・MRIなどの高度医療機器の提供や、町立奥出雲病院に耳鼻科医師を、飯南町立飯南病院に整形外科医師を週1回派遣し、連携強化にも努めている。</p> <p>この他、地域包括ケアシステムの構築が求められる中において在宅医療も推進して行く必要があるが、在宅医療を中心的に担っている開業医について、雲南市では高齢化や後継者不足などの影響により、対応が困難な状況になっており、中核病院である雲南市立病院に求められる役割がこれまで以上に大きく多岐に渡って来ている。これに対応するため、当院においては訪問診療などの在宅医療を担う部門として平成28年度に「地域ケア科」を開設し、現在2名の総合医（指導医）と3名の専攻医の体制で取り組んでいるが、訪問診療等は日増しに需要が増加して来ており（H28年度実績：訪問診療26件、在宅看取り2件 H29年度：訪問診療105件、在宅看取り19件 H30年度：訪問診療205件、在宅看取り14件 R元年度：訪問診療170件、在宅看取り10件）在宅医療も担える総合医の確保が必要不可欠である。</p> <p>以上のことにより、内科系総合医の派遣を切に要望いたします。</p>	Ⅱ	20	22

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
雲南市	平成記念病院 (115床)	1	0	1	<p>当院は雲南圏域唯一の民間総合病院として、外来・入院・透析を3つの柱として地域医療に取り組んでいます。</p> <p>今年度の患者数は新型コロナウイルス感染症の影響もあり、外来、入院ともに前年同期比減少傾向にありますが、外来患者数は9月末現在20,413人で1日平均140.8人、入院は一般病棟が60床で1日平均入院患者48.9人、病床利用率81.5%、医療療養病棟が55床で1日平均入院患者45.6人、病床利用率83.0%となっています。</p> <p>透析治療では、島根県の人工透析実施状況調査の結果によれば、令和元年10月1日現在、雲南圏域の透析患者113人のうち70人を当院で受け入れており、その数は平成30年度と同調査比12人増加しています。さらに今後の患者数増加に備え、今年度中に透析装置を1台増設し20台とする予定です。また、通院ができない患者様へは送迎を行い患者様のニーズにお応えしています。</p> <p>地域医療拠点病院としてMR I、CT撮影及び読影による遠隔医療等の診療支援や学校での検診等に加え、近隣の特別養護老人ホームや有料老人ホームへの訪問診療を始めとして福祉施設との連携も行い、当地域の医療を担っています。</p> <p>当院の常勤医師は5名（内科4名、整形外科1名）ですが、圏域内の開業医の高齢化は進み、その数も減少している状況下で当院の常勤医師の疲弊は年々増しており、このままでは地域に現状の医療を提供し続けていくことが困難になるものと危惧しております。</p> <p>現在提供している医療を維持し、地域医療を守っていくためには、当院において少なくともあと1名は常勤医師が必要です。よって自治医科大学卒業医師の派遣依頼を行うものです。</p>	II	5	5
奥出雲町	町立 奥出雲病院 (98床)	1	0	2	<p>平成26年4月から常勤医師6名体制となり、さらに平成29年4月からは5名体制となりました。その後地域枠推薦医師が短期間常勤医師となった時期はあるものの、令和2年4月現在において5名体制は変わっていません。</p> <p>当院の診療圏域の対象人口は本町と近隣を含めた15,000人余りで、特に内科の常勤体制は2名と非常に厳しく、令和元年度の内科外来患者数は11,649人（1日平均48.5人）、内科入院患者数は、15,597人（1日平均42.6名）であり、内科の常勤医師には大きな負担を掛けている状態が続いています。このような状況から現在の体制では、これ以上内科入院患者を受入れることは出来ない現状であり、新型コロナウイルス感染症患者の受入れもままならない状況であります。</p> <p>町内の医療全般を見ると、各診療所では医師の高齢化や後継者不足により町内の半数近くの地域が無医地区となっており、今後も無医地区が増加するものと見られます。その上介護施設の医師確保も非常に難しく、当院の非常勤医師が施設の嘱託医として一時期応援に回る事態も発生している状況であります。地域医療拠点病院としての役割である巡回診療や診療所への医師派遣、代診などは現状の医師数では難しい状況であり、地域医療を守っていく使命を果たせざるに在る状況であり、内科系総合医の確保は町にとって最も重要課題であります。</p> <p>つきましては、町や病院の実情をご賢察いただき、内科系総合医の派遣によって町民が安心して暮らせる地域医療に繋がるよう更に努めて参りますので、格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。</p>	I	5	6

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
飯南町	町立飯南病院 (48床)	2	1	2	<p>現在、当院の常勤医師は内科医5名であり、うち島根県からの派遣医師は4名（うち義務年限内の医師1名）となっています。同じく本町が運営する飯南町立来島診療所については、平成28年4月から常勤医師が不在となり、当院の内科医がその都度出向いて診療を行っている状況です。その他、飯南町立志々出張診療所、飯南町立谷出張診療所についても同様の診療を行っています。</p> <p>令和元年度の患者のうち内科の患者数は、外来で年間21,056人（診療所を含む）と医科全体の70.3%、入院で年間11,813人と医科全体の95.4%を占めており、内科診療は当院の中心を為す重要な診療科目であることがわかります。</p> <p>また、総合医として2名の医師が外科外来も担っており、患者数は外来で2,920人、入院で570人の患者数となっています。その他、内科系総合医により、内視鏡を用いた検査、処置等が970件、超音波診断装置による検査、処置が645件となっており、これらについても欠くことのできない業務となっています。</p> <p>当院は、町内唯一の救急告示病院として、令和元年度には年間1,287人（うち救急車179人）の時間外患者を受け入れているほか、町内はもとより近隣の雲南市及び美郷町の一部からも患者を受け入れるなど、住民の安心・安全な暮らしにとって欠かせないものとなっています。</p> <p>町内には介護福祉関連施設が8ヶ所と多く、高齢者世帯も多いことから、入院機能の維持に加え、関連機関との連携強化を含めた在宅医療の支援も重要な取り組みの一つとなっています。</p> <p>今後も地域医療拠点病院としての役割を果たすとともに、地域包括ケアシステム推進のため、より一層の取り組みを図っていくためにも、内科系総合医の増員は必要不可欠です。</p> <p>このような中、これまで当院とともに本町の地域医療を担ってこられた町内唯一の開業医が令和元年末をもって閉院されたことにより、医科系では、当院が町内唯一の常勤医を配置する医療機関となり、より一層当院の担う役割が大きくなっています。</p> <p>働き方改革が求められる中、常勤医師の日当直業務は、1人あたり月平均7回程度と非常に大きな負担となっている状況もあり、勤務間インターバルの確保などへの対応も大きな課題となっています。</p> <p>新型コロナウイルス感染症の流行に伴い当院は島根県の要請により外来及び入院において患者を受け入れる医療機関に指定されているところであり、感染の収束が見通せない中、今後診療や検査の件数が増加することが見込まれるが、地域の医療提供体制を維持していく上で常勤医師を含めた医療従事者の不足が懸念される所です。</p> <p>当院では、常勤医師7名体制を目標とし、地域住民の求める医療の提供、展開をするため、また、町内唯一の常勤医を置く医科系医療機関を維持するとともに、地域医療の拠点として、次の活動を確保していく必要があることから、内科系総合医の増員派遣を強く要望します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内唯一の常勤医を置く医科系医療機関としての「かかりつけ医」機能 ・地域の医療機関（へき地診療所）との連携（診療支援・検査協力等） ・在宅療養支援のための訪問診療（訪問看護ステーションとの連携） ・本町が実施する人間ドック、特定健診などへの協力及び支援 ・介護福祉施設等の入所者の診療 ・学校医、産業医としての活動 ・初期臨床研修医を含めた医療従事者の地域研修の充実 ・院外研修により地域医療を支えながら、ひろい診療能力の維持や新しいスキルの獲得 	I	5	6

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
川本町	社会医療法人 仁寿会 加藤病院 (81床)	1	0	1	<p>はじめに) 加藤病院を運営する社会医療法人仁寿会は、永年の僻地医療分野での公益活動が評価され、平成23年8月1日に社会医療法人仁寿会として島根県知事の認定を受け、公益性の高い非営利組織として地域医療に取り組んでいます。</p> <p>さて、現在仁寿会は包括的かつ統合された地域医療・介護サービス事業複合体事業として地域包括ケアを展開しています。加藤病院は強化型在宅療養支援病院として在宅医療を基軸としており、病床数81床のうち、地域包括ケア病棟55床は主にサブアキュート機能を担い、26床の在宅復帰強化型の医療療養病棟として、地域包括ケアシステムにおける在宅療養支援を入院機能においても行っています。また、美郷町立君谷診療所への管理医師の派遣を通じて無医地区での診療支援を行なっています。更に平成26年度から川本町の無医地区3地区への巡回診療開始、令和元年8月からは大田圏域の温泉津町井田地区への巡回診療を、毎週水曜日の午後を診療日として8月より開始しました。地域の状況を鑑み、引き続き温泉津地域の訪問診療をはじめ、大田圏域の医療課題の解決支援にも注力する必要があると私たちは思っています。病院併設の在宅超強化型介護老人保健施設「仁寿苑」、医療近接型住宅「穏」、さらにサービス付き高齢者向け住宅「リハビリテーション&ナーシングテラス 和かち逢う家」においては、主に介護保険制度を活用した在宅療養復帰・維持支援を住み慣れや地域に「住まう」ための機能として提供しています。</p> <p>その他の公益に資する活動では、地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律（平成元年法律第64号）第4条に基づき策定された島根県計画に基づき、地域の病床機能分化の促進及び質の高い在宅医療提供体制の確保を図るための事業として、邑智郡医師会から受託している地域医療連携コーディネーター配置事業を行っています。邑智郡内の医療・看護・介護従事者に加えて行政・介護保険者も交え、多職種連携研修を行いました。さらに、同補助事業のひとつであるしまね型医療提供体制構築事業においても地域歯科医師会との連携等、多分野多部門横断的な活動を展開しています。</p> <p>公ではなしえない民間医療機関等への医師派遣を通じた地域医療支援を行っていることも、社会医療法人仁寿会の大きな特色となっています。大田圏域、浜田・江津圏域の介護老人保健施設、益田圏域の診療所への医師派遣は、地域の医療のみならず、介護保険サービス提供体制の維持においても必要不可欠なものとして各機関では認識されています。私たちも地域医療・介護提供体制の総合確保を支援する重要な役割として当活動を今後も継続して参りたいと思います。自治体を超え、さらには大田・邑智二次医療圏にとどまらず、地域の社会資源を有機的かつ統合的に活用することによって、現在の社会医療・介護政策を地域ニーズに適合させつつ推進することは、社会医療法人に与えられた極めて希少かつ他に類をみない有用な機能であり、プライマリヘルスケアの成果としての地域住民の皆様への健康に貢献する所存です。</p> <p>1. 巡回診療等による地域住民の医療確保に関すること 平成26年10月より、ヘルスプロモーションカー（小型ドクターカー）「ざいたくん」による川本町の無医地区3地区へ巡回診療を行っています。 （1地区は患者受診実績がなく巡回診療休止中）※令和元年8月より大田市井田地区巡回開始</p> <p>2. へき地診療所等への医師及び看護師等の派遣（へき地診療所の医師等の休暇時等における代替医師等の派遣（継続的な医師派遣も含む）を含む。）並びに技術指導、援助に関すること 半世紀以上にわたり、美郷町立君谷診療所への管理医師、看護師、事務職員の派遣を通じて無医地区での診療支援を行なっています。</p>	Ⅱ	13	12

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
川本町	社会医療法人 仁寿会 加藤病院 (81床)	前ページからの続き			<p>3. 派遣医師等の確保に関すること 社会医療法人仁寿会の常勤医師は、本年10月現在11名 ※(男性医師10名、女性医師1名)です。(※10名のうち、男性医師2名は3/週、女性医師1名は2/週の勤務です。)このうち9名で病院の外来診療、地域包括ケア病床及び医療療養病床診療、居宅における訪問診療、無医地区への巡回診療、介護老人保健施設仁寿苑の診療、診療所2カ所の外来診療を行っています。大田市立祖式診療所の指定管理を法人として請負、民間老人保健施設2カ所、民間特別養護老人保健施設1カ所の代診診療への医師派遣、荘内診療所配置医師としての診療を行っています。また、新たに大田・邑智圏域の診療所からも医師応援体制を求められており、これ以上の派遣機能を担うには、医師の確保が喫緊の課題です。</p> <p>4. 地域の医療従事者に対する研修及び研究施設の提供に関すること (1) 地域医療実習初期臨床研修医も31年度は5名受け入れることができました。これからの地域において必要な総合医を育成するために多職種連携によるチーム医療を学ぶプログラムを提供しています。 (2) また、島根大学医学部学生、広島国際大学薬学部学生、島根県立大学看護学科との医薬看専門職連携学生教育プログラムによる3学部学生合同臨床実習や、リハビリテーション専門学校学生など将来の地域医療人の育成支援として実習指導など教育活動も行っています。また、島根大学医学部および島根県立大学看護学科、また企業との共同による認知機能に関する研究や島根県ブランド品の開発あるいは販路拡大につながるなどの研究にも積極的に参加し、国内はもとより海外においても研究成果を発表しています。(別紙仁寿会の有する現在の主な機能等一覧参照) ※令和2年度からは、広島国際大学IPE(専門職連携教育)と連携予定(新型コロナの影響で令和3年度へ延期)</p> <p>5. 遠隔医療等の各種診療支援に関すること 25年度から島根県在宅医療連携推進事業の採択を受け、多職種連携による包括ケアシステムの構築を27年度まで行ってきました。28年度からは、邑智郡歯科医師会の協力を得て、邑智郡食事栄養支援協議会を発足しました。また、29年度からは、しまね型医療提供体制構築事業を県より受託し、圏域の医療提供の課題抽出と解決に向けに取り組んでいます。さらに平成30年度から医療介護総合確保基金による病床機能分化に向けた機能分化に向けた医療連携推進コーディネーター事業を邑智郡医師会より受託しました。このことにより地域における包括的かつ継続的な在宅医療の提供を目差すと共に、今後まめネットやICTを活用した在宅医療に関する施策の均てん化などに全力で取り組む準備を引き続き行っています。</p> <p>6. 地域の医療機関との連携による「ブロック制(拠点となる病院と近隣の診療所等では病院医師が専門診療を行い、学会や研修会出席時等における代診を相互に行う医師の相互交流システム)」等の推進に関すること 診療所の医師が学会等により不在の場合、在宅等での看取りに対応するための患者情報を共有し、在宅看取りを行うことができるよう体制を構築しています。</p> <p>7. その他市町村が地域における医療確保のために実施する事業に対する協力に関すること 学校保健医として町内の保育園、小学校、中学校、県立中央高校、県立矢上高校の園児・児童・生徒の健康管理を行い、また、産業保健医として県立高校、地元企業、島根県警川本警察署を含め郡内7つの事業所の労働者の安全衛生管理を行い、地域衛生水準の向上に寄与するとともに、警察嘱託医として管轄内の遺体検案業務等警察行政への医療支援にも貢献しております。</p>			

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
川本町	社会医療法人 仁寿会 加藤病院 (81床)	前ページからの続き			<p>以上のように多岐にわたって社会の公器としての公益的な診療・健康管理・社会活動を行う中で公益的な活動へのさらなる貢献要請が近年特に増加しているという現状があります。慢性的な医師不足という状況に変わりはありません。</p> <p>非常勤医師の現状) — 派遣受け入れ医師数昨年度比減少 加藤病院は、島根大学医学部附属病院から多くの診療科にわたる非常勤医師を臨床指導医として派遣していただいております。地域において必要な専門性の高い医療サービスを提供することできる環境となっております。しかし、医療勤務環境改善、医師の働き方改革の推進等ご存知のように、大学からの医師の派遣においては、さらなる困難な状況が依然として続いており、その結果、加藤病院常勤医師の上記医療に関する活動を継続するためには現在以上の応援体制の継続が必要です。</p> <p>へき地医療を継続するためには地域で活躍することのできる家庭医（総合診療医）の養成が必要不可欠です。その観点からも、地域という最前線の臨床「現場」で一定期間、お互いに学び合い、教え合う環境の整備が望まれます。これにより、地域医療を担う家庭医（総合診療医）の現場力の維持・更新が可能となります。そして、さらに重要なのが官民の人材交流です。多分野多部門横断的な活動がこの島根の地域包括ケアシステムの継続的な発展には必要であり、その鍵となるのが官民の人材交流です。有為な人材育成に資する方策としてぜひ実現していただきたく存じます。</p> <p>以上の理由により、へき地で働くことができる医師の派遣を是非よろしくお願いいたします。</p>			

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
邑南町	公立邑智病院 (98床)	3	2	2	<p>公立邑智病院は邑智郡内唯一の救急告示急性期病院として、邑智郡に不可欠の社会インフラとなっています。高度医療、救命救急医療などを除く、急性期医療の8割を地域内完結することを目標に、各診療科が「相互支援」「相互指導」のもと、できるだけ専門分野にとらわれない診療を行っております。また高度急性期病院から診療所・在宅までを繋ぐ中間的な医療機関として、邑智郡地域連携推進協議会の事務局として郡内83機関の会議を主催する等、病病連携や病診連携、介護福祉施設との連携強化を図っております。</p> <p>そのような中、当院の内科は平成26年4月から総合診療科と広告し、プライマリケアから上部・下部消化管の内視鏡検査、透析管理など、幅広い診療や保健予防活動の分野においても重要な位置づけとなっており、年々需要が増しているところです。近年は、地域医療拠点病院及び初期臨床研修協力病院として、国保診療所の支援も行っておりますが、郡内の開業医の平均年齢が66.2歳で、後継者不在による閉院が危惧されていることから、今後は、訪問診療やへき地診療所等への医師派遣業務を拡充する必要があります。</p> <p>また、本年4月から矢上診療所所長に宮本医師が着任され、5月からは当院の内視鏡検査を週1回担当していただくなど、診療連携を強化しております。本来であれば「相互支援」として、当院での診療日に代診を派遣するべきであり、内科系総合医師が増えれば積極的に診療所支援を行う予定です。</p> <p>自治医科大学卒業後義務年限内医師の教育としては、98床の急性期及び包括ケア病棟を備えた、地域で唯一の急性期救急病院であることから、幅広い疾患を経験することができ、総合診療医が活躍できる地域であります。更に、内視鏡業務では地域で開業されている三上医師の支援も受けており、専門医の技術を学ぶこともできます。</p> <p>今後は、東京医科歯科大学総合診療専門プログラム、内科専門プログラムへの協力参加を予定しております。都市部の大学からも期待される教育施設としての負託にこたえるべく努力する所存であります。</p> <p>現在の運営状況として、許可病床98床の令和元年度病床稼働率は85.0%、うち平成26年10月から届け出ている地域包括ケア病床41床の病床稼働率は91.4%となりました。</p> <p>【令和元年度データ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合診療科外来患者数 13,895人 ・救急受け入れ患者数 3,110人（うち救急車622人） ・内視鏡検査1,153件 （内ポリープ切除術件数112件、ERCP21件、ESD5件、PTGBD5件） <p>以上のことから、自治体病院として地域住民の負託に応える医療機能を永続するために、総合診療外来2診、入院管理、内視鏡検査、透析管理、2次救急、当直、代診派遣の体制を継続するには、最低6名の内科系総合医が不可欠であると考えており、うち2名の医師派遣を要望します。</p>	I	11	9

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
江津市	島根県済生会 江津総合病院 (300床)	3	0	3	<p>平成18年、現在地に新病院を移転開院した当初26名いた常勤医師も現在は14名と激減している。その内、2名は70歳以上、更に1名は定年延長をお願いした医師であり、体力的にも厳しい中ではあるが、強い使命感で診療をしていただいている状況である。</p> <p>当院は、江津市内はもとより、大田市の西部並びに邑智郡の一部の地域の住民を中心に、地域の住民が安心して暮らすことができるよう救急医療も含めた医療の提供に努めている。特に、高齢者は慢性期疾患を抱え、内科系の医療の充実が必要不可欠である。しかしながら、消化器内科は、平成27年3月末に3名の退職があり、平成30年度以降は、高齢な医師と派遣医師1名の2名体制で診療にあたっている。また、内科についても、平成30年3月に1名の退職があり、現在は消化器科・循環器科医師5名が内科診療も行っている状況でもある。</p> <p>令和3年4月以降は消化器内科医師の確保を含め内科系常勤医師確保の目途が立っていない状況であり、更に内科系の診療体制が脆弱となり、救急機能にも十分対応ができない状況が発生することが見込まれる。</p> <p>現在、島根大学及び鳥取大学から当直応援医師を派遣していただいているがそれでもほとんどの医師が月3～4回の当直と緊急呼出を強いられている状況であり、今後さらに当直回数が増加する可能性は高く、医師の疲弊感は限界まで達している。</p> <p>こうした中、江津市内にある江津市国民健康保険川越診療所の診療事業について平成30年度までは江津市医師会の医師が診療を行っておられたが、高齢のため診療事業を退任されたことから、地域医療の維持の一助となるよう厳しい状況ではあるが、当院より週1回派遣している状況である。</p> <p>一方、当院と江津市医師会において医師の高齢化と医師不足が進む中で、地域医療を維持し地域住民が安心して住むことができるよう令和元年6月に地域医療連携推進法人「江津メディカルネットワーク」を設立した。</p> <p>この取組は開業医の御子息の帰郷の促進や診療所の開業を目指す医師が済生会江津総合病院や江津市医師会での研修をしながら、診療所の継承準備や開業をするためのノウハウを学ぶとともに、済生会江津総合病院を拠点として江津市国民健康保険川越診療所をはじめ、市内の開業医の支援はもとより、近隣の無医地区の診療所も視野に入れ診療体制を構築したいと考えている。この取組が軌道に乗るまでには一定の年数が必要であり、医師不足で悩む地域のモデルケースにもなると考える。</p> <p>既に、当院並びに当圏域における今後の方向性についても議論が行われており、在宅療養支援病院への移行することを視野に入れ、また、地域医療が崩壊する恐れがある江津市では当院と医師会を医療連携コーディネーターが繋ぎ、地域医療連携推進法人を立ち上げた環境の中で、その中核となる当院の新たな取組を支援するために、派遣を強く要望する。</p> <p>(令和2年4月～9月の内科実績) 外来 延患者数 2,658名 外来収入 20,496千円 入院 延患者数 0名</p>	Ⅱ	14	14

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
江津市	西部島根医療福祉センター (112床)	1	0	1	<p>1) センターの概要 当医療機関は島根県西部地域の江津市に位置し、病床数112床、外来診療科15科を標榜し島根県の西部圏域の地域医療を支える役割を担っている。医療機関の主な基礎データは以下となっている。</p> <p>○標榜科 整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科、小児科、内科、循環器内科 消化器内科、神経内科、糖尿病内科、外科、小児外科、呼吸器外科、耳鼻咽喉科 皮膚科、歯科口腔外科</p> <p>○患者数（令和元年度実績） ・外来1日平均患者数 116.4人（再掲 内科系1日平均外来患者数 20人） ・入院1日平均患者数 99.9人</p> <p>○医師数（令和2年10月1日現在） ・常勤医師 6名（再掲 内科系0名） ・非常勤医師 常勤換算数3.12名（再掲 内科系1.21名）</p> <p>○医師派遣事業（令和元年度実績） ・乳児健診等 6市町 年間30回実施</p>	Ⅱ	5	5

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
江津市	西部島根医療福祉センター (112床)	前ページからの続き			<p>2) 現在の問題点</p> <p>●常勤内科医不在の問題 患者数1日平均約100人の入院部門については、医療機関であると同時に障害児者施設としての機能も有しているため、呼吸器管理や吸引吸入が必要な感染リスクの高い方など「重度重複障害」を持つ超重症児者・準超重症児者が多く、感染症や呼吸器疾患の対応を小児科・整形外科医師が行っている。また、近年は高齢化による内科系疾患や悪性腫瘍のリスクが年々増してきているが、平成28年8月に常勤の内科医師が退職後、内科系の常勤医師の不在が続いているため、疾患によっては他医療機関へ依頼せざるを得ない場合もある。外来部門では、週3日と月2回非常勤医師により外来診療を行っているが、曜日によっては医師不在のため、必要な医療が提供できていない状況にある。市町依頼の健診や予防接種も出来る限り対応しているが、通常の診療との兼務であり、医師個々の負担は大きい。</p> <p>●医師の受け持ち患者数について 入院診療は、常勤内科系医師不在の状況の中、近年4カ月のローテーションによる派遣常勤小児科医1名が入所者78名を受け持ち対応している。また入所者22名と整形手術対象者数名を、整形外科医が担当しているが、整形外科外来も障害児者への専門医療とともに一般整形のニーズが高く、外来との兼務により医師の負担が大きい。</p> <p>●小児科の予約待ちの状況 小児科は発達障害の診療を主に行っており、学校や関係機関からの紹介も多く、予約が5ヶ月待ちの状況となっている。2名の小児科常勤医のうち、1名の小児科医は多数の入院患者の対応で外来診療は難しく、状況の改善のため、他医療機関への患者紹介を行うとともに、近年は市町健診業務の見直しを行い診療日を増やすなどにより、常勤医1名と非常勤医で診療の対応をしているが、問題の解消には至っていない。新患の件数も継続して年間100名を超えており、近年ますます増えている状況である。</p> <p>●医師派遣事業 乳児健診を始めとする医師派遣事業を島根県西部圏域で実施しており、乳幼児の小児神経疾患及び整形外科疾患の早期発見を行っている。小児科の予約待ちの状況を緩和するため、当センターが実施する医師派遣事業の見直しが必要な状況となっている。</p> <p>●その他 内科系医師不在により敷地内の併設障害者支援施設の嘱託医の業務、当直業務等を行っており、常勤医個々の負担はさらに高まっている。</p> <p>以上から、今回派遣をいただいた場合、地域における外来診療や入院の重症児者への総合的な診療、併設施設の嘱託医、当直業務に対応していただくことにより、小児科の予約待ちの問題の緩和、安定した地域医療の提供、当センターの果たすべき役割である障害児者への充実した専門医療の提供、そして乳児健診を始めとする医師派遣事業の充実した提供が可能となる。</p>			

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)																					
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2																				
浜田市	国民健康保険 診療所連合体 (波佐・小 国・あさひ・ 弥栄・大麻)	1	0	1	<p>浜田市国民健康保険診療所連合体は、中山間地域の医療を確保するため、5つの診療所（「大麻診療所」、「波佐診療所」、「波佐診療所小国出張所」、「あさひ診療所」、「弥栄診療所」）を運営しており、現在5名の医師（常勤2名、嘱託2名、県派遣1名）で診療をぎりぎりの状態で行っている。また、嘱託医師の1名は子供の急病等でも休む事ができない状況にある。</p> <p>常勤医師1名は令和3年度末に定年退職を迎えることとなり、中山間地域の医療の確保はもちろんのこと、当市の保健・医療・福祉の課題解消に向けた各種行政施策への参画や、将来の地域医療を担う人材育成など、この連合体の果たすべき役割を維持し、新たな人材へ継承していくためには、早期の医師確保は必要不可欠であり、1年間連合体で従事する医師1名の派遣を強く要望する。</p> <p>施設別一日当たりの診療件数及び診療日数（令和元年度）</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>①診療件数（延べ）</th> <th>②診療日数</th> <th>①÷②</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>(1) 大麻診療所</td> <td>909件</td> <td>144日</td> <td>6.3件</td> </tr> <tr> <td>(2) 波佐診療所 ※小国含む</td> <td>4,650件</td> <td>263日</td> <td>17.6件</td> </tr> <tr> <td>(3) あさひ診療所</td> <td>6,999件</td> <td>284日</td> <td>24.6件</td> </tr> <tr> <td>(4) 弥栄診療所</td> <td>7,125件</td> <td>262日</td> <td>27.1件</td> </tr> </tbody> </table>		①診療件数（延べ）	②診療日数	①÷②	(1) 大麻診療所	909件	144日	6.3件	(2) 波佐診療所 ※小国含む	4,650件	263日	17.6件	(3) あさひ診療所	6,999件	284日	24.6件	(4) 弥栄診療所	7,125件	262日	27.1件	I	2	1
	①診療件数（延べ）	②診療日数	①÷②																									
(1) 大麻診療所	909件	144日	6.3件																									
(2) 波佐診療所 ※小国含む	4,650件	263日	17.6件																									
(3) あさひ診療所	6,999件	284日	24.6件																									
(4) 弥栄診療所	7,125件	262日	27.1件																									

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
益田市	益田地域医療 センター 医師会病院 (327床)	3	0	3	<p>益田医師会病院は益田圏域の急性期、慢性期、回復期、維持期、在宅医療支援等を担っており、益田圏域の地域包括ケアシステム構築において重要かつ不可欠な役割を果たしています。</p> <p>医師会病院内科医師の役割例として、「かかりつけ医からの紹介対応」「急性期病院からの地域包括ケア病棟への入院紹介」また「益田赤十字病院との連携による紹介等の入院・外来対応」「施設からの外来・入院対応」等、多岐にわたっており、また内視鏡検査をはじめとする疾病の早期発見・治療にも貢献しています。長年、島根県、島根大学医学部から医師派遣を受け、また、不断の努力により医師確保を行って参りましたが、H27年度、島根大学医学部からの内科医師派遣が益田赤十字病院に集約された以降、内科医師確保が大変厳しい状態が続いております。</p> <p>H30年度には「親父の背中プログラム」を立ち上げ医師会員と協力しながら総合内科医を育てることを目的の一つとして開始し、一定の成果を上げておりますが、「親父の背中プログラム」を通じて勤務いただく内科医師は週16時間程度の外部研修に出向いており、また1～2年間を区切りとして勤務するため中期的な継続勤務は見込めません。</p> <p>令和3年度は「親父の背中プログラム」2名を含む内科医師3名体制となりますが、令和4年度以降には再び狩野院長の内科医師1名体制となる見込みです。狩野院長も65歳を迎え、医師業務に加え院長として病院全体の管理業務も行っており、かかる負担は大変大きく、狩野院長の内科医師1名体制では医師会病院の診療継続も厳しく、また地域ニーズに対応することも大変困難であります。</p> <p>是非、狩野院長を中長期でサポートできる内科系総合医の派遣を1名からでも構いませんのでご検討いただこう希望しております。</p> <p>医師会病院では一般病棟（60床）だけではなく、地域包括ケア病棟（60床）回復期リハ病棟（44床）特殊疾患病棟（48床）医療療養病棟（44床）介護医療院（44床）といった特徴のある病棟を持っており、内科系総合医の活躍できる場は多いと考えています。</p> <p>また、かかりつけ医の高齢化、医師会員の後継者問題は益田市においても大変深刻な状況です。昨年度、益田圏域において長年透析治療を担ってこられた開業医の先生より、高齢により継続が難しいとの相談を受け、透析機能を継承し医師会病院で行っております。また、高齢化により往診や訪問診療等に対応できる、かかりつけ医も減少しており、かかりつけ医が支えてきた在宅医療の継続も大変厳しい状況となってきております。</p> <p>このような状況に医師会病院において、かかりつけ医との更なる連携強化・支援強化が今後益々重要となってくるとともに、地域包括ケアシステムの更なる醸成の為には、医師会病院において在宅医療支援機能を更に強化する必要があります。訪問看護や訪問介護、訪問リハとともに訪問診療等を行うために地域に出かけていく病院勤務医師が必要であると考えており、そのためには内科系総合医の充実は不可欠であると考えております。</p> <p>一方、地域医療拠点病院として市内5か所の巡回診療所を開設し、年間220回程度の診療を行っていますが、自治医科大学出身の医師は月に一回程度しか赴けず、また他の病院勤務医師も多忙であるため、開業医の先生方に協力いただき診療を行っております。</p> <p>また、診療応援について整形外科・婦人科の津和野共存病院への定期的な診療応援を行い、国保知夫村診療所にも年6回程度診療応援に赴いておりますが、内科医師の不足により市内開業医の医師不在の際の代診による診療応援には応じられていません。</p> <p>以上のように、医師会病院の内科の診療体制は非常に厳しい状況であり、医師の負担軽減を図るとともに、医師会病院ならではの地域医療・地域包括ケアシステムへの貢献を果たすために是非とも内科系総合医の派遣をお願いいたします。</p>	Ⅱ	12	13

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
津和野町	津和野 共存病院 (49床)	2	1	2	<p>当院は、人口約7,000人弱の津和野町唯一の入院機能を持つ病院で、隣県の中山間地域にとっても必要とされている医療機関となっております。</p> <p>診療は外来82人/日 入院49床（一般13床 地域包括ケア病床36床）（平均入院患者数40人）を内科医3名放射線科医1名の4名体制で対応しています。また、近隣の特別養護老人ホーム2施設（入所者100名）、一般在宅（30名）への訪問診療を行っています。在宅療養支援病院として、介護老人保健施設（46床）含めそれらの施設の緊急時の受け入れ、看取りへの対応も行い患者、利用者様のみならずご家族の皆様、職員へ安心・安全な医療の提供を行っています。地域包括ケアシステムの一員として「住み慣れた家で、住み慣れた地域で暮らしたい」を支えるべく行政、地域住民と共に協力して在宅医療に力を入れ、訪問看護と連携して24時間365日対応体制を整え、在宅での看取りにも対応しています。</p> <p>入院機能についても地域包括ケア病床を36床導入し、専門リハビリスタッフによる機能回復訓練の実施、看護師、介護福祉士、MSW、栄養士などが積極的に介入し他職種連携の下、在宅復帰を支援しています。検診事業においても鹿足郡内はもとより益田圏域全体から、年間約1600件を受け入れ圏域の健康保持増進に努めています。</p> <p>そのような状況の中、日々の診療はもとより、健診活動、入院患者の医療管理、救急対応、日当直と十分な休養のとれない現状です。益田赤十字病院との医療連携を締結し、従来の島根大学等の協力を合わせて外来、日当直応援を頂きかろうじて対応しております。</p> <p>救急告知を取り下げ、夜間診療の停止をしておりますが、圏域の医療確保のため日中の救急には可能な限り対応しております。</p> <p>医療のみならず生活を支えている当院の存在は、この圏域にとってなくてはならない医療機関となっており、そこで働く医師の健康保持こそが最優先されるべきと考え、引き続き医師派遣の継続を要望いたします。</p>	I	4	5
津和野町	日原診療所	1	0	1	<p>当診療所は、主に津和野町及び隣接する吉賀町、益田市の住民に対応しています。</p> <p>内科常勤医師1名、非常勤医師3名により5日/週（外来患者数30名/日）訪問診療（40名/登録）を実施しております。</p> <p>先般、日原地区に唯一の個人病院の院長が急死され、今後外来患者数も増加が見込まれます。地域住民の健康維持にとってなくてはならない医療機関であります。</p> <p>現在、様々な形で医師確保に努めておりますが、思うように成果が出ず、医師一人体制では非常に不安定な状況であります。</p> <p>また、当診療所の内科医師の健康維持のための有給休暇の取得および研修、学会への参加による医療技術の向上は地域住民の安心・安全を守るためにも必須となります。</p> <p>これらのことにより医師派遣を強く要望いたします。</p>	I	1	1

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
吉賀町	社会医療法人 石州会 六日市病院 (110床)	1	0	1	<p>当院は、島根県西部、山口県、広島県の県境に位置する中山間地域である。当町はその面積のほとんどが山、森に覆われており、冬には大雪となることもある地域で、六日市病院は町にある唯一の病院として6,500人の住民に医療を提供している。また、県境に位置することで、山口、広島の両県の方も入院・外来ともに利用されている。</p> <p>当院では、24時間体制で救急医療を担っており、一般42床、地域包括ケア8床、療養60床で構成されている。また、施設内に老人保健施設を併設しているため、救急医療から、慢性期、維持期までをひとつの施設で過ごすことができる。</p> <p>前年度末、常勤医師5名体制であったが、今年度3名の常勤医師の入職があり、現在は8名で医療提供をしている。しかしながら、医師の高齢化により、救急医療や当直業務を担う常勤医師が2名しか確保できず、島根大学医学部附属病院や益田赤十字病院など非常勤医師に協力いただきながら運営している。</p> <p>これらのことから、現在提供している医療を維持し、地域住民のみなさまに安心して生活して頂くには最低1名の医師派遣を要望する。</p> <p>【令和元年度データ】 外来患者数：30,784人（月平均：2,565人） 新規入院患者数：807人（月平均：67人） 救急車搬入件数：273件（月平均：23件）</p>	Ⅱ	6	7

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
隠岐の島町	隠岐広域連合立 隠岐病院 (115床)	5	3	4	<p>当院は、隠岐医療圏の地域医療拠点病院として、限られたマンパワーの中で、島でできる医療の提供に向けて日々取り組んでいます。離島という厳しい地理的条件、超高齢化の進行する中、開業医等の減少もあり、地域医療における当院の果たす役割は益々高まっています。</p> <p>内科においては、コロナ禍にあっても外来患者数120名／日超、入院患者数は40名／日超となっており、特に外来患者数は同規模病院と比較すると非常に多い状況（全国平均の約2倍）であり、外来診療が14時頃までかかり、その後入院患者の対応となることも多々あります。</p> <p>加えて、内科を中心に救急外来対応（令和元年度：救急車受入件数489件、休日及び時間外患者数4,992人）、内視鏡等の検査（令和元年度実績：上部1,722件、下部579件）、透析、リハビリなど様々な業務も兼務し、また宿日直（1人あたり月4～6回程度）にも対応しなければならないなど限られた人数で多忙を極めていきます。</p> <p>更に、令和元年9月より医師不在となっている町立五箇診療所について、自治医科大学出身の医師を中心に、住民が地域で安心して暮らすためには医療が不可欠との熱い声を受け、支援を続けています。幸いにも町において、来年からの医師招聘の目途がたったものの、今後も同じような状況が起こり得るのが離島医療の現実です。</p> <p>一方で、隠岐の島町も他と同様に人口減少が続いている中、後期高齢者人口は現時点をピークに当面横ばいの状態が続き、入院患者の平均年齢も年々高くなり、複数の疾患や、様々な問題を抱えた高齢者の患者が増加していることから、今年10月1日に「総合診療科」を院内標榜しました。今後は、常勤医不在診療科（耳鼻科、泌尿器科、皮膚科）のプライマリ・ケアにも対応し、より患者に寄り添った医療の質の向上及び地域包括ケアシステムにおける地域医療連携の核となるべく取り組んでまいります。</p> <p>しかしながら、四半世紀もの間、神経内科医としてはもとより、透析、リハビリ、皮膚科、更に診療所支援にも対応するなど総合医の役割も担ってきた当院の顔ともいえるべき医師が今年度を持って70歳の定年を迎えることとなり、加えて長年にわたり内科の柱であった医師も自院を継ぐために退職となり、一気に2名の減と言う厳しい現実直面しており、次年度は何としても1名増の4名を要望するものです。</p> <p>今年4月には診療看護師1名体制ですが診療支援室を設置し、特定看護師の養成、医療クランクの増員などタスクシフトの推進を強化し、引き続き勤務医負担軽減に取り組むとともに、平成29年に設置した島の医療人育成センターを初め、独自の医師確保対策等を強化してまいります。離島という特殊性も鑑み、どうしてもお願いする医師数が必須となります。</p>	I	16	17
隠岐の島町	国民健康保険 五箇診療所		隠岐病院から要望	—	—	I	0	0

市町村	医療機関名	R 2		R 3	要望理由	派遣方針 (優先順位)	常勤医数 (10月1日時点)	
		要望 ①	派遣	要望 ②			R1	R2
西ノ島町	隠岐広域 連立 島前病院 (44床)	2	1	2	<p>隠岐島前病院は、隠岐島前地域の3島唯一の病院であり、病院勤務医はブロック制により島前各診療所での診療にも従事するなど、地域医療拠点病院として島前地域の医療の中核的な役割を担っている。</p> <p>島前病院への県派遣医師は院長を含めた6名で、前述の通り医師確保が困難な知夫診療所、浦郷診療所、へき地三度診療所への医師配置等を包括的に管理したブロック制で運用している。これらの診療所への恒常的な医師派遣のため、島前病院における常勤人員は県派遣医師4名及び独自採用1名の合計5名で、そのうち義務年限内の医師は、1名である。</p> <p>病院の令和元年度の入院患者数は年間延べ人数14,194人で外来患者数は、常勤医の担う内科(14,690人)、小児科(2,215人)、外科(6,070人)で年間延べ人数22,975である。</p> <p>常設の診療科は内科2診と外科1診であるが、外科を内科医が兼務しており、内科外来では医師1人あたり約30.5人を、また、外科外来では医師1人あたり約25.2人の外来患者を診察している。</p> <p>診察時間は13時頃までと遅く、患者数によっては16時頃まで診察する場合もある。また、病院医師は、消化器・循環器・呼吸器等、内科全般にわたり総合医の役割を担って診療しており、病院・診療所での診療のほか、胃カメラ・エコー等の検査にも従事するなど、少ないマンパワーで多忙を極めている。</p> <p>このほか、隠岐島前病院では在宅医療の支援体制を推進しており、医師の訪問診療等や西ノ島町内の老人福祉施設への往診も行っている。</p> <p>これらのことから、現状の診療体制の確保のため少なくとも地域医療支援会議の派遣医師2名は必要であり、1名の継続と新規に1名を希望する。</p>	I	7	5
知夫村	国民健康保険 知夫村診療所	1	1	1	<p>当診療所は、長い期間にわたり地域医療支援会議により自治医科大学卒業医師の派遣を受け、診療機能を維持してきました。</p> <p>常勤医師獲得のため専門誌へ医師募集の広告を掲載する等懸命に取り組んでおりますが、現在のところメドがたっておりません。</p> <p>当診療所は、島唯一・村唯一の医療機関であり、無医村となることを避けるため、自治医科大学卒業医師の派遣を要望致します。</p> <p>令和元年度 患者数 5,189件(内急患数30件) 1日平均 30件</p>	I	1	1
合 計		33	9	31				
病院		30	8	28				
診療所		3	1	3				